



みどりの手帖



特集

『TOKYO GREEN 2020』
提起されたランドスケープ

～2020、緑は東京のレガシーになる～

輿水 肇氏 TOKYO GREEN 2020 推進会議 会長 / (公財)都市緑化機構 理事長

亀山 章氏 (公財)日本自然保護協会 理事長

進士 五十八氏 東京農業大学 名誉教授

蓑茂 壽太郎氏 (一社)ランドスケープアーキテクト連盟 会長

浦井 雅之氏 東京都市大学 環境学部 教授

細谷 恒夫氏 (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会 2020 東京五輪特別委員会 委員長

佐久間 護氏 NPO 法人 屋上開発研究会 技術開発部会 壁面緑化分科会 会長

CLA 関東支部 支部長 挨拶

「冬の虫探し」

いきものコラム その15

ところ、想像以上に小さな生きものが潜んでいました。それも活動期には確認しづらいものが多いのです。それではと、草の種類、草の置き場所を変えて入り込む生きものを調べてみようとする、積み上げた草をきれいに片づけられてしまうことがしばしばです。枯れ草の中に小さな生きものたちが潜んでいることには気づいていないのです。最近、土留めのための粗朶の中にも色々な生きものが潜んでいることが分かりました。先人の知恵は小さな生きものにも優しかったのです。都市においても生物多様性の保全、創出が叫ばれている昨今、枯れ木や枯れ枝、枯れ草が如何に小さな生きものたちに利用されているか、皆さんも冬の虫探しをしてみませんか？

（株）ブレイク研究所 山崎裕志

冬にも沢山の虫を観察できることをご存知ですか？冬の虫と聞いてフユシヤクの仲間を思い浮かべる人は可成りの虫通かもしれません。暖かい部屋を飛び回るクサガキメムシを思い浮かべる人は、あの臭気に悩まされた経験のある人でしょうか？ 図鑑などではテントウムシの集団越冬の写真を良く見かけます。造園関係の方ならば松のこも巻きを思い出すことでしょうか。虫とは無縁と思われる冬でも案外虫との関わりはあるものです。

都市の小さな緑地でも色々な生きものが生息しています。特に昭和の中ごろ以前から残されている緑地では多くの生きものを見ることがあります。枯れ木や枯れ枝を少し残しておくだけでも小さな生きもの拠り所となるものなのです。数年前、秋に刈り取った積草を篩った

気になるお店

今回は東京体育館で受けられる体力測定をご紹介します。

東京体育館 健康体力相談 今の自分の体力レベルが分かる！

東京体育館で、健康や体力に関する相談を受けられるのをご存知でしょうか。自転車エルゴメータなどによる最大負荷試験を行い、運動中の心電図や血圧を測定し、運動目的、体力レベルに応じたトレーニング方針のアドバイスを受けられます。

これから運動を始めたい方、体力レベルを知りたい方向けの A コースと、競技力アップに向けてトレーニングしたい方向けの B コースがあり、特に運動能力の指標となる“最大酸素摂取量”の実測値を測定する、本格的な B コースは人気があります。料金は 1,650 円。実施日の 1 ヶ月前から予約することができます。定員

は 3～5 名なので、申込みはお早めに。新しい年の始めに、体力レベルの確認に、でかけてみてはいかがでしょうか。



東京体育館



[左] A コース 測定の様子
[右] B コース 測定の様子

相談実施日 ● 毎月10日程度(HPで確認願います)

住所 ● 渋谷区千駄ヶ谷1-17-1

電話 ● 03-5474-2116(予約)
03-5474-2112(内容に関すること)

予約受付時間 ● 9:00～21:00

交通 ● JR総武線千駄ヶ谷駅 徒歩1分
都営大江戸線国立競技場駅 徒歩1分

ホームページ ● http://www.tef.or.jp/tmg/consul_top.jsp

編集後記

ひつじ年の新年を迎え、新たな思いで、様々なスタートを切っていることと思いますが、今月号は、昨年 11 月 25 日に行われた TOKYO GREEN 2020 推進会議

キックオフ・フォーラムの特集です。

2020 年の東京五輪まで、長いようで短い時間が日々過ぎていきます。円安で外国の旅行者もぐんぐん増えてきており、日本の“おもてなし”力を十分に発揮し、世界にアピールする絶好のチャンスです。我が造園界もそれぞれの得意分野で、一層の活躍をして、五輪を盛り上げていきましょう。

広報委員が刷新して初めての発行で、1 年振りとなってしまいました。が、“あげあげ”なムードが少しでも業界を動かし、活性化することを願っています。我が「みどりの手帖」も微力ながら、そんなムーブメントを応援していきますので、今後ご愛読のほど、宜しくお願いします。(泉地)

みどりの手帖 Vol.15 2015年1月

発行者 (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関東支部長 新井 豊
〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-3-7 近江会館ビル8階
TEL 03-3662-8266 FAX 03-3662-8268

企画・編集 光益 尚登、加藤 直人、石井 ちはる、石垣 良弘、菊谷 隆、杉原 豪、高橋 彰、和田 淳、泉地 善雄

※転載・転用を禁じます。表紙写真/皇居と富士山

新井 豊 株式会社フジランドスケープ

平成 26 年 4 月に関東支部長を仰せつかり、約 10 ヶ月活動を続けてきました。今回の執行部は、支部長、副支部長及び幹事のほとんどが新任となったことから、当初は様子が変わらず手探りの状態でしたが、なんとか活動ができるようになりました。



一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会は、1964 年に造園設計事務所連合として 15 社でスタートし、2014 年に 50 周年を迎えました。関東支部は本部に遅れる事 16 年の 1981 年に設立されました。当初本部の活動は、関東支部会員が主体となって行ってきたことから、関東支部の設立は少し遅くなりましたが、諸先輩方が地域に根ざした活動の必要性を痛感して関東支部を設立することとなりました。設立当初は、関東地域のほとんどの発注者がランドスケープコンサルタンツ協会の存在を知らない様な状況でした。そのため関東支部では、何年もの間多くの会員の協力を得て、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、東京都の県・市の全ての発注者に、会員名簿と積算ガイドライン持参して広報活動を続けました。今では多くの発注者がランドスケープコンサルタンツ協会の存在を知る様になっていると思います。関東支部は、今後も本部の活動をサポートしながら支部としての地域活動を続けてゆきたいと考えています。

今期の関東支部の活動は、業務、技術、広報の常設委員会の活動の他に、大きな活動の柱が 2 本あります。

1 本目の柱は、2020 年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピックに向けて「TOKYO GREEN 2020」推進会議のランドスケープ行動宣言における「安全・環境共生・健康生活の先進モデル都市東京」を実現するための様々な活動です。その実現のためには、行政、学会、コンサルタント、施工、施設等の様々な造園関連の組織が協力し合って展開してゆかなければ実現できないと思いますし、それは C L A 本部と関東支部が協力して、それぞれの組織の連携の要として積極的な活動を行ってゆくことが必要ではないかと考えています。

2 本目の柱は、「都市公園再生プロジェクト研究会」がまとめた成果を、実際の業務として実務の中に生かしてゆく活動です。都市公園再生プロジェクトは、研究会が平成 25 年度から 3 年もの時間かけて取りまとめた成果を、関東支部が譲り受けて会員とともに活用してゆくものです。その成果の内容は、「コミュニティ形成とまちの魅力を高める身近な公園（住区基幹公園）再生のあり方」と「東日本大震災の復興における提案を通じた新しい公園のあり方」の 2 つの提案となっています。こちらは、現在、発注者に配布する広報用のパンフレットを作成しているところまで来ていますので、出来上がり次第会員の皆様には説明会を開くなど紹介をいたします。

これらのオリンピック・パラリンピックに向けたまちづくりと都市公園再生プロジェクトの提案は、ランドスケープ職能集団のコンサルタントとして新たな仕事を作り出してゆくため役立てる事が出来るものと思います。関東支部は、会員の新しい業務展開にむけて、発注者、関連団体の橋渡しとなるような活動を続けてゆきたいと考えています。

身近な公園の再生

公的不動産のマネジメントとして
身近な公園の再生を考えてみませんか？



『TOKYO GREEN 2020』 提起されたランドスケープ ～2020、緑は東京のレガシーになる～

特集



多様性のある緑豊かで持続可能な環境都市TOKYOを実現する絶好の機会となる2020年東京オリンピック・パラリンピック。サステナブルシティTOKYOを目指すアクションとして、『TOKYO GREEN 2020』が結成され、平成26年11月25日に、そのキックオフフォーラムが開催されました。今回はそのフォーラムの概要をご紹介します。

キーノートプレゼンテーション

輿水 肇氏 TOKYO GREEN 2020 推進会議 会長
(公財)都市緑化機構 理事長

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機として、造園、ランドスケープ、みどりの専門家集団の活躍が期待されます。

都市緑化機構では国民の都市緑化意識の高揚を図るため、緑の保全や創出に携わる様々な取組みを支援しており、その一環として、

表彰種別	表彰対象	表彰内容
緑の「実績」	緑の「計画」	緑の「技術」

て、緑の都市賞、緑の環境デザイン賞、屋上・壁面・特殊緑化技術コンクールなどの表彰や、2020年までの期間限定で「おもてなしの庭」(緑化プランの整備費助成プログラム)、企業等の優良な緑地を認定する制度としてのSEGESなどがあります。

ぜひ積極的なご応募をお待ちしています。



亀山 章氏 (公財)日本自然保護協会 理事長

環境都市東京：「環境」をレガシー(遺産)として次世代に継承するオリンピックを開催するためには、都市の生物多様性保全に向けた取り組みが重要です。そのためには緑化により健全な生態系の創出を図ることが必要です。

歴史・文化都市東京：都市としての東京の魅力は、江戸の庭園文化だけでなく、明治神宮外苑など明治時代以降の様々な歴史遺産がありま



す。それらは地域のアイデンティティであり、未来に引き継ぐことが重要です。

東京セントラルパーク：東京においては生物多様性と歴史・文化を象徴的に有する、都市の核となる公園が望まれます。皇居及び周囲の公園・緑地を横断的に連携し、首都東京にふさわしい中央公園として、2020年に向かって多くの遺産を残していくことが重要です。



進士 五十八氏 東京農業大学 名誉教授

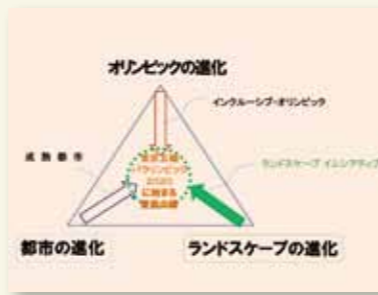
人間と自然の調和共存社会と市民のトータルライフの実現は、造園家の究極の目標です。自然的環境の持続的発展にはバイオ・ダイバーシティ(生物多様性)が不可欠のように、社会的環境の持続のためにはライフスタイル・ダイバーシティ(生活多様性)が、そして文化的環境持続のためにはランドスケープ・ダイバーシ

ティ(景観多様性)が重要です。

新世紀のTOKYOは、2020年のみならず、それ以降の21世紀中甸にも耐えうるデザインが必要です。そのためには日本本来の地域らしさ、土地、場所の魅力を引き出すことが重要であり、江戸からの文化的、伝統的環境を持続させるランドスケープ・ダイバーシティが不可欠です。



蓑茂 壽太郎氏 (一社)ランドスケープアーキテクト連盟 会長



オリンピックの進化をみる中で、また都市の進化を考える中で、ランドスケープの進化を探る方向で考えを巡らせ、「2020に始まる東京の緑」がランドスケープの進化として描き出すことを期待しています。

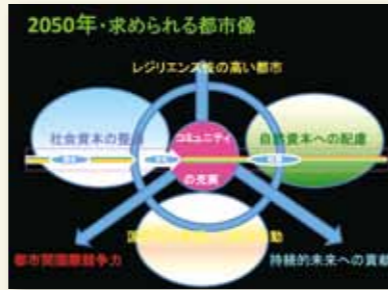
オリンピック・パラリンピックの進化として、開催都市だけでなく、開催効果を国土全体に、スポーツから文化活動までインクルーシブ(すべてを含んだ)なオリンピックは、世界人類共通の祭典として継続することが求められています。また、成熟都市は全ての人を受け入れるインクルージングなまちであり、全ての場所で風景の価値が感じられるランドスケープイニシアティブで調えられた都市であります。



涌井 雅之氏 東京都市大学 環境学部 教授

江戸の遺伝子を持つ東京は、近未来都市が指向するニューアーバニズムに適合する自然再生・再生循環型の都市像を再生するに相応しいといえます。この遺伝子を受け継いだ都市を実現し、江戸モデルと標榜できる水準に上げることが、日本が世界に具体的に表現できるオリンピックレガシーといえます。

ロンドンでは歴史的に英国を牽引したテムズ川を基軸とし、水と緑による都市再生を実施しています。東京が2020年には、オリンピックレガシー



により、都市の順位がロンドンと同じような順位となることを目指し、豊かさを深めて行く必要があります。

行動宣言

細谷 恒夫氏 (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会 2020 東京五輪特別委員会 委員長

ここに、『TOKYO GREEN 2020』推進会議のランドスケープ行動宣言を発表します。この行動宣言は、5つの柱から構成されます。

- 「TOKYO GREEN 2020」が目指すもの
「安全・環境共生・健康生活の先進モデル都市東京」を世界にアピールする水と緑の骨格の再構築を目指します。
- 「TOKYO GREEN 2020」3つの視点
「災害に強い都市構造」「世界の先進モデルとなる環境共生都市」「健康ライフが楽しめる先進モデル都市」をつくります。
- オリンピック・緑のレガシーと「2020 コア・プロジェクト」
オリンピックを契機に、官民が連携して主体的に緑の取組みを継続的に推進します。
- TOKYO センターエリアにおける水と緑の展開
- オリンピックマラソンコースを軸とした水と緑と花の回遊形成

『TOKYO GREEN 2020』コア・プロジェクト ～みどりのおもてなし～

佐久間 護氏 NPO 法人 屋上開発研究会 技術開発部会 壁面緑化分科会 会長

- 花と緑と水の大回廊**
都心部の西は緑の濃い緑地が点在し、東は河川や運河が縦横に走っています。これらを繋ぎ、花と緑と水の大回廊を提案します。
- おもてなし都市空間**
和の心と技術で創出します。大回廊の特性を生かし水を有効に活用して快適な夏を演出します。日本の伝統的な色や文様、技術をモチーフとして、花と緑と水のおもてなしをデザインします。花と緑と水の大回廊に包まれたおもてなし都市空間として、さまざまなアイデアが提案されました。

「将来に向けた水と緑の骨格構造概念図」

